

七生福祉園溺死事件を明らかにする会

第1回報告集会

～事件の本質を追及する～

2003.10.31 in 文京シビックセンター

参加者は私達の想像以上に多く、障害をもつ当事者、支援者、障害児・者の親、マスコミ関係者、施設職員の方、その他、幅広い立場の方がこの事件に关心があることがわかりました。

第1部「基調報告」

1. 事務局より事件の概要と会発足の経過説明をしました。

2. 訴訟への経緯と訴訟の争点として大石剛一郎弁護士、黒崎隆両弁護士から説明をしていただきました。



事件の問題点と訴訟の争点の説明
(写真右 大石弁護士・左 黒崎弁護士)

3. ご両親からの決意表明

進さんの母親の陽子さんより、「こうやって集まっていたいって、この子のみなさんに対する力はすごいなとわかりました。私はいつもかばんに入れています。この子は私の生きる先生だった。この子が死んで私はどうしたらいいかわからなくなっています。みなさん力を貸してくださいお願いします。」と闘いへの固い意志を話されました。

4. 呼びかけ人アピール



全国の呼びかけ人の皆さん



呼びかけ人の梅原さん（写真右）

石田さん（ピープルファースト静岡、左写真一番右）

静岡でも金谷町事件と言うのが起きています。大阪ではサングループ事件、北海道でも札幌育成園事件、こんなに事件がたくさんあっていいのか！

増田さん（千葉県、左写真一番左）

結果的に言うと日本の施設でやっていることは全部密室での指導であって、こういったことを1つ1つ明らかにしていきたいと思います！

などと、当事者の立場から、仲間を奪われた怒りを強い口調でアピールされました。

第2部 シンポジウム（テーマ…事件の本質を追及する）

シンポジスト

松友了氏（全日本手をつなぐ育成会）

市川和彦氏（茅ヶ崎リハビリテーション専門学校）

小田島栄一（ピープルファースト東久留米・事務局）

末永弘氏（自立生活センターグッドライフ）

コーディネーター 寺本晃久氏（ピープルファースト東京）



シンポジウムの様子

・ 小田島は…、

「やっぱり施設はこういうでっかい事件があります。七生も僕がいたころは無かったんですけど、僕が出てから事件がいっぱい起きています。親が施設に入れちゃうからこういうことが起きるんじゃないかと僕は思います。こんなことが施設でたくさん起きるなら僕は非常につらい立場です。どうして親は施設に入れるのか、親の会が施設に入れてる。」と、七生福祉園への怒り、また、そういった入所施設に入れらてしまう事に対する強い怒りをシンポジウムの出だしに話しました。

・ 末永氏は…、

本事件以外の他にも七生福祉園の様々な事件・事故等を取り上げ、園の体質そのものに問題があることを示されました。



全日本手をつなぐ育成会の立場で
応えていた松友氏



施設職員の具体的に必要部分を話す
市川氏

・松友氏は…、

「入所施設はもはや必要悪としての位置づけしかない。3年間で通過できると言われてそれに期待した。しかし実際にはそうではなかった。それは間違いだった。これからは明確な目標を持って収容施設を減らしていく。だからその1人として私も息子を出すことにした。施設が良いか悪いか以前に親が期待しているようなものではないんです。」

などと、小田島の質問や会場からの声に対し、全日本手をつなぐ育成会として、自己批判も含め、入所施設の増加の歴史とその誤りについてされました。

・市川氏は、いくつか率直な疑問点を取り上げ、さらに…、

「1, 1つの事件・事故が起きたら徹底的に分析、事例検討をやってリスクマネジメントをすること。

2, 鹿児島のみひかり園という施設で、園長が暴力で逮捕された事件の第2回公判が10月20日にあって、その施設で働いていた現場の職員が証言に立ちました。これは1つの大きなきっかけになると思います。施設の中を一番見れるのは職員、それと利用者です。これからこういう職員がでてくることを期待しています。」

と、これからの施設に必要な部分を具体的に提案されました。

・最後に小田島は、

「東久留米から名張の施設に入っている人に会いに行って、本人は出たいって言って、施設は出してもいいって言ってもお兄さんが反対していて、半年たっても出てこれない。今もめていますが、何とか出していきたいと思っています。」とシンポジウムを締めくくりました。

会場からの声

- ・「僕は地域支援をずっとやってきましたけど、僕は施設なんか無いほうがいいと思っています。施設は解体したほうがいいと思っています。」
- ・「東京都や育成会が運営している施設はどれぐらいありますか？」
- ・「ピープルファーストのスローガンは3つあります。1,少し助けてくれれば何でもできる。2,どんな障害があっても人間だ。3,地域で暮らそう」

などと、当事者の強い意志、親の会や入所施設に対する怒りなどが次々とでました。

2時間という短い時間でしたが、集会に集まった方々皆様が、それぞれの立場でこの七生福祉園溺死事件を改めて追及することができた内容になりました。

**お忙しい中、集まって下さったみなさま、
本当にありがとうございました！！**